平成29年度学校評価シート　　高知県立高知若草養護学校

1　目指す学校像

○児童生徒が自己実現を達成できる教育を行う学校　○保護者が成長と発達を実感できる教育を行う学校　○地域になくてはならない存在として愛される学校　○教職員が仕事に誇りをもち、やりがいを感じる学校

2　本年度の教育目標

一人一人の教育ニーズを適切に把握し、能力等適性に応じた教育により、持てる力を発揮し、社会参加に向け基礎的な知識・技能・態度・意欲を育む。

3　評　価　※評価：Ａ（目標以上の成果があった）　Ｂ（おおむね目標が達成できた）　Ｃ（5～6割程度の成果しか上げられなかった）　Ｄ（Ｃ以下）　※アンケートの結果①そう思う②ややそう思う③あまり思わない④思わない⑤わからない

| 項　目 | 昨年度の課題 | 本年度の目標 | 目標達成のための手だて | 自　己　評　価 | | 学校関係者評価 | | 今後の課題 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教育課程の改善 | ≪教育課程の見直し≫<br><br>＜教科指導の重視＞<br>○国・数等を全課程に位置付け<br>○国・数等の指導内容を開発<br><br>＜自立活動の強化＞<br>○PT、ST、OT、ORTとの連携<br>○コミニュケーション指導の強化 | ○教科別指導を重視する。<br>◆国語・数学（算数）等の教科別指導を全課程に位置付ける。<br>◆国語・数学（算数）等の指導内容を系統的に整理しすべての児童生徒が学ぶ。 | ○全ての類型の教育課程に国語、数学（算数）等の教科を位置づけ、実践的な取組を進め、学期毎に、各クラス、学部、学校全体で振り返りを行う。<br>○類型ごとの縦割り授業研究を行い、教科等の指導内容や方法について、学部を超えた実践交流を行う。<br>○個別の指導計画に各教科の目標を明記し取り組み、評価を丁寧に行い、次学期、次年度に繋げる。<br>○夏季休業中の教育課程研究集会において、本校、分校の取組についての情報交換を行い、２学期からの実践に活かす。 | ○全ての類型の教育課程に国語、数学（算数）等の教科を位置づけ取り組むことができた。教科等を合わせた指導との関連や週時数等について、新学習指導要領の内容を熟知したうえで検討が必要である。<br>○教育課程研での実践報告、縦割り授業研３回、自主研５回を実施し、それぞれの子どもたちの課題にあった「国語」「算数（数学）」を模索できた。個別の指導計画の改善・活用と、チェックリストの活用による発達段階に応じた具体的指導事例を収集・整理し、校内で共有することにより、系統的な指導に繋げる。<br>■教育課程の改善<br>教科別の指導－１（わかる授業）<br>教員①40.9%②52.3%③5.7%④1.1%<br>教科別の指導－２（ねらいの明確化と評価の実施）<br>教員①29.5%②63.6%③6.8%④0.0% | B | ■教育課程の改善<br>教科別の指導－1（わかる授業）<br>児童生徒①52.2%②47.8%③0%④0%<br>保護者①50.9%②40.0%③3.6%④0%5⑤3.6%複数回答1.8%<br>・国語で内容をわかりやすく伝えてくれているから。<br>・毎日の連絡帳が詳しくわかりやすい。<br><br>教科別指導－2（ねらいの明確化）<br>児童生徒①73.9%②21.7%③4.3%④0%<br>保護者①67.3%②30.9%③0%④0%⑤1.8%<br>・3年間同じ作業ばかりでなく、将来自分のものとなる事を増やしてほしい。 | B | ○教科等を合わせた指導との関連や週時数等について、新学習指導要領の内容を熟知したうえでの検討<br><br>○個別の指導計画の改善・活用と、チェックリストの活用による発達段階に応じた具体的指導事例の収集・整理及び系統的な指導の実施<br><br>○補装具使用に係る安全管理の徹底<br><br>○外部指導者のアドバイスの活かした指導の継続化<br><br>○コミュニケーションに係る実態把握及び教科学習との関連性の重視<br><br>○児童生徒の自立活動における領域ごとの課題の明確化と関連させた指導の仕組みづくり |
| | | ○自立活動を強化する。<br>◆ＰＴ、ＳＴ、ＯＴ、ＯＲＴとの連携を一層推進する。<br>◆コミュニケーションの指導の充実を図る。 | ○非常勤理学療法士と自立活動専任の役割を明確にし、各クラスとの連携と自立活動の指導の向上に繋げる。<br>○エビデンスに基づいた指導を行うため、非常勤理学療法士を講師に体の動きについての自主研を開催する。<br>○昨年度センター研修生作成のシートを活用したＳＴ等との連携を進める。<br>○コミュニケーションについての研修を開催する。<br>○各児童生徒のコミュニケーション能力についての評価を行う。<br>○教育センター研修生と連携したコミュニケーション力向上を目指した指導方法についての実践研究に取り組む。 | ○非常勤理学療法士の勤務日数が増え、自立活動専任教諭と役割を分担、協力しながら自立活動の指導の向上に向けた取組を進めることができた。非常勤理学療法士からの日々のアドバイスや、研修（学校２回、舎３回）がエビデンスに基づいた指導に繋がっている。<br>○補装具使用中にアクシデントが発生してしまった。より一層、安全管理を徹底する必要がある。<br>○「外部専門家活用シート」を活用し、外部専門家との連携（ＳＴ３回、ＯＴ２回、ＯＲＴ２回）を進めることができた。アドバイスを活かした指導の継続化が必要である。<br>○コミュニケーションの研修会を実施した。今後は、教科学習との関連を重視しながら、実態把握を行うとともに、指導の充実を図っていく必要がある。<br>○自立活動の指導において、領域ごとの個々の児童生徒の課題を明らかにし、関連させた指導を確実に行うための仕組み作りが必要である。<br>■自立活動の強化－１（専門家の活用）<br>教員①58.0%②42.0%③0.0%④0.0%<br>■自立活動の強化－２（コミュニケーション）<br>教員①45.5%②48.9%③5.7%④0.0% | | ■自立活動の強化－1（専門家の活用）<br>児童生徒①60.9%②30.4%③4.3%④4.3%⑤0%<br>保護者①56.4%②29.1%③3.6%④0.0%⑤10.9%<br>・自立活動が他校より充実している。できることが増えている実感がありうれしい。教員の専門的知識も他校より優れている。<br>■自立活動の強化－2（コミュニケーション）<br>児童生徒①65.2%②17.4%③13.0%④0.0%⑤4.3%<br>保護者①50.9%②41.8%③1.8%④0.0%⑤5.5%<br>・コミュニケーションの方にも力を入れて欲しい。 | | |
| 主体的・対話的・深い学びの推進 | ≪アクティブラーニングの推進≫<br>＜主体的な学びの実践＞<br>○授業における評価規準の策定<br><br>＜対話的な学びの保障＞<br>○一人一人の表現手段を保障<br><br>＜深い学びの追及＞<br>○般化の実践事例の蓄積 | ○主体的な学びを推進する。<br>○対話的な学びを推進する。<br>○深い学びを追求する。<br>◆３つの視点での授業が行われているか、授業評価の観点を明確にし、授業改善に取り組む。 | ○本校・分校合同の授業改善チームを作り「いい授業をしよう！～主体的で対話的な深い学びの追及～」に取り組み、授業参観・改善のポイントを全校で共有していく。<br>○全教員が、主体的・対話的で深い学びを意識した公開授業を年間１回以上行い、参観者のコメントシート等を参考に、授業改善に取り組む。（各教員が、授業改善に取り組む３点を明確にし、その結果についても共有する。） | ○授業改善チームによる、授業参観、協議を重ね、授業改善のポイントを明記した「主体的で対話的な深い学びの視点での授業改善シート（案）」を作成した。今後は校内で周知し、シートの活用を進めることにより、授業改善の取組を推進する。<br>○全教員が１回以上、主体的で対話的な深い学びを意識した公開授業を実施し、授業改善に取り組んだ。公開授業が２学期後半に集中したことや、授業の関係で他の教員の授業を参観する機会が少なかったこと等課題はあるが、全教員が公開授業を実施した意義は大きい。<br>■主体的・対話的・深い学びの推進<br>教員①27.3%②65.9%③6.8%④0.0% | B | ■主体的・対話的・深い学びの推進<br>児童生徒①56.5%②26.1%③17.4%④0.0%<br>保護者①56.4%②32.7%③5.5%④0.0%⑤3.6%複数回答1.8%<br>・子どもの小さい反応もよく理解してくださっている。<br>・授業中に「あれ」「それ」と答えがあいまいな時や、答えが違う時がある。 | B | ○授業改善シートの活用による授業改善<br><br>○教員の授業参観機会の確保 |
| 文化・芸術・スポーツの振興 | ≪文化・芸術・スポーツの振興≫<br>＜学校文化の創造＞<br>○文化・芸術・スポーツに関連した校外学習の推進<br><br>○文化・芸術・スポーツを通した社会参加の促進<br><br>＜障害者スポーツの振興＞<br>○体育や部活動の充実<br><br>○ボッチャの普及・競技力の向上 | ○文化、芸術を推進する。<br>◆文化・芸術に関連した学習及び社会参加の一層の推進を図る。<br><br>○障害者スポーツを振興する。<br>◆体育や部活動に障害者スポーツの競技種目を取り入れ、各種大会に参加する。<br>◆ボッチャ等の障害者スポーツを関係機関と連携して振興を図る。 | ○文化・芸術の推進とスポーツの振興に関連した行事、校外学習を企画、実施する。<br>○文化、芸術に関する作品展等に積極的にエントリーしていく。<br>○体育や部活動に障害者スポーツ大会の種目やボッチャ等の種目を取り入れる。<br>○体育や部活動等において、障害者スポーツセンター等との連携を深め、専門家を講師に招聘し、授業等の実施やアドバイスを受ける。<br>○部活動の開催日数を増やす。<br>○障害者スポーツ大会や、ボッチャ大会へのエントリーを進める。<br>○高知県ジュニアボッチャ大会を本校で開催する。 | ○校外学習（校内新聞作成のための取材、乗馬体験、美術展・作品展見学等）、障害者スポーツセンターを活用した舎外活動（ﾄﾗﾝﾎﾟﾘﾝやﾋﾞｰﾑﾗｲﾌルなど５種体験）、余暇活動（音楽・マジック）、専門家を講師にお菓子作りや陶芸、読み聞かせ等（８回）の授業等を実施し、積極的に文化・芸術・スポーツと触れる機会を持つことができた。<br>○体育（競技グループ）での障害者スポーツセンターの出前授業（ﾌﾗｲﾝｸﾞﾃﾞｨｽｸ、陸上競技、ｽﾗﾛｰﾑ等）の実施や、部活動を月１回から２回に増やしたことにより、県障害者スポーツ大会への参加者が３競技１１名（昨年１競技３名）になり、全国大会へも３名出場し活躍できた。また、高知県ジュニアボッチャ大会を本校で開催（11/11）し、本校、分校から児童生徒１４人、保護者１０人の参加を得、競技の普及ができた。<br>○６つの美術作品展に３２点、２つの文芸作品展に２点出品し、多くの表彰を受けることができた。また、多くの検定（英語、漢字、日本語、ビジネス）にも積極的にチャレンジ、成果をあげることができた。<br>○大会参加や作品展出品が社会参加となるとともに、全国大会出場や、表彰により自己肯定感、自己有用感の向上に繋がっている。<br>■文化・芸術の振興<br>教員①29.5%②52.3%③18.2%④0.0%<br>■障害者スポーツの推進<br>教員①36.4%②44.3%③18.2%④1.1% | A | ■文化・芸術の振興<br>児童生徒①47.8%②30.4%③13.0%④8.7%⑤0.0%<br>保護者①61.8%②29.1%③5.5%④0.0%⑤3.6%<br>・作品は、今年出してないし、期限にあせるから。<br>・毎年春野の文化祭に作品を出している。<br><br>■障害者スポーツの推進<br>児童生徒①60.9%②26.1%③4.3%④8.7%⑤0.0%<br>保護者①54.5%②38.2%③3.6%④0.0%⑤3.6%<br>・児童生徒の活躍が新聞等でも広く掲載され、全体の励みになっている。<br>・先生たちが楽しく授業をしてくれるから<br>・体育は楽しむものではないから | A | ○文化・芸術・スポーツに関連した校外学習の推進<br><br>○文化・芸術・スポーツを通した社会参加の促進<br><br>○体育や部活動の充実<br><br>○ボッチャの普及・競技力の向上 |